

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

406-618

事務事業名	上郷介護老人保健施設運営事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	市立病院	課等名	上郷介護老人保健施設		包含する細々目	13	1	1	1			315,765
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり					13	1	1	2			50,111
施策	35 高齢者福祉の推進					13	2	1	1			2,550
						13	2	1	2			174
実施区分	継続	会計	老健施設	環境調整会議	不要	関連計画 条例等						
		事業期間	19	年度～	23	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	入所・短期入所・通所等の利用者	入所定員:ベッド数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする		
			50				
	通所定員:人数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度				
		25					
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
介護を必要とする高齢者に安全安心なケアを提供する。	施設入所利用率:% 入所利用者数 / 入所定員	18目標	90	最終目標	95	最終目標達成年度	
		18実績	88.2	19目標	95		↑
		23目標		23実績			
	通所利用率:% 通所利用者数 / 通所定員	18目標	75	最終目標	80	最終目標達成年度	
		18実績	74.7	19目標	80		↑
		23目標		23実績			

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	上郷介護老健施設は、入所定員50人の介護老人保健施設で、在宅生活への復帰を目指し、機能訓練により、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことを目指している。入所希望者は、申込により施設内入所判定会において協議決定し、利用することができる。 また、在宅支援事業として、通所リハビリテーション事業を、定員25名で開設している。1日(6時間)と半日(3時間)を実施し、在宅で生活している高齢者の支援をしている。18年度途中より定員を10名から25名に増として事業を行っている。 18年度末高松分院の閉院により、19年度より訪問リハビリテーション事業も在宅支援事業として開設した。1日当り最大12名まで受け付けている。	実績:入所利用者数88.2%・通所利用者数 通所事業は、9月より半日利用事業を開始、1日当りの利用者数を確保確保した。 入所の空きベッドは、できる限り短期入所の希望に応えることで利用率の向上を目指した。 通所利用者については、以前からの利用者の高齢化等により利用率が下がる傾向にあり、新規の利用者の確保に努めた。	施設入所者数:人 利用率:% 通所利用者数:人 利用率:%	44.1人 88.2% 13.8人 74.7%
		目標入所利用者数をできる限り95%にする。 通所利用者数は利用者の拡大により1日当りの利用者数を確保する。	施設入所者数:人 利用率:% 通所利用者数:人 利用率:%	47.5人 95% 28人 80%

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	79,767	32,396
一般財源	18,029	107,000	
事業費計(A)	97,796	139,396	
人件費	正規職員所要時間	18年度 41,955	19年度 64,095
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	150,031	229,204
	トータルコストA+B	247,827	368,600

特定財源内訳や補足事項	サービス収入ほか
-------------	----------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	安心していきいき暮らせる	入所定員数:人	現状値	50	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
上郷町が経営していた高松病院に併設の老人保健施設として平成5年4月に開設、入所定員50床・通所定員10人(1日)で事業を開始。平成7年の飯田市との合併により高松病院とともに飯田市の事業を引き継ぎ、平成12年介護保険のスタートとともに、介護老人保健施設として運営。18年度末で高松分院が閉院。19年度より高松診療所を併設した老健施設として存続中。	当地域は、既に「高齢化社会」から「高齢社会」へと移行し、少子化と相まって、一層要介護高齢者とその家族に対する介護支援が必要となってきている。公の施設の使命として、安心安全はもとより、安価で利用しやすい施設として地域住民のニーズに対応すべく、新施設の建設を計画している。	公の施設の使命として、安心安全はもとより、安価で利用しやすい施設として地域住民のニーズに対応している。新施設の建設を計画しているが、新施設としても、安価な施設を、との期待は大きい。また、在宅生活支援の核として地域へ発信していくリハビリテーション等の支援施設としての期待も大きい。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 <input type="text"/> 具体化	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	